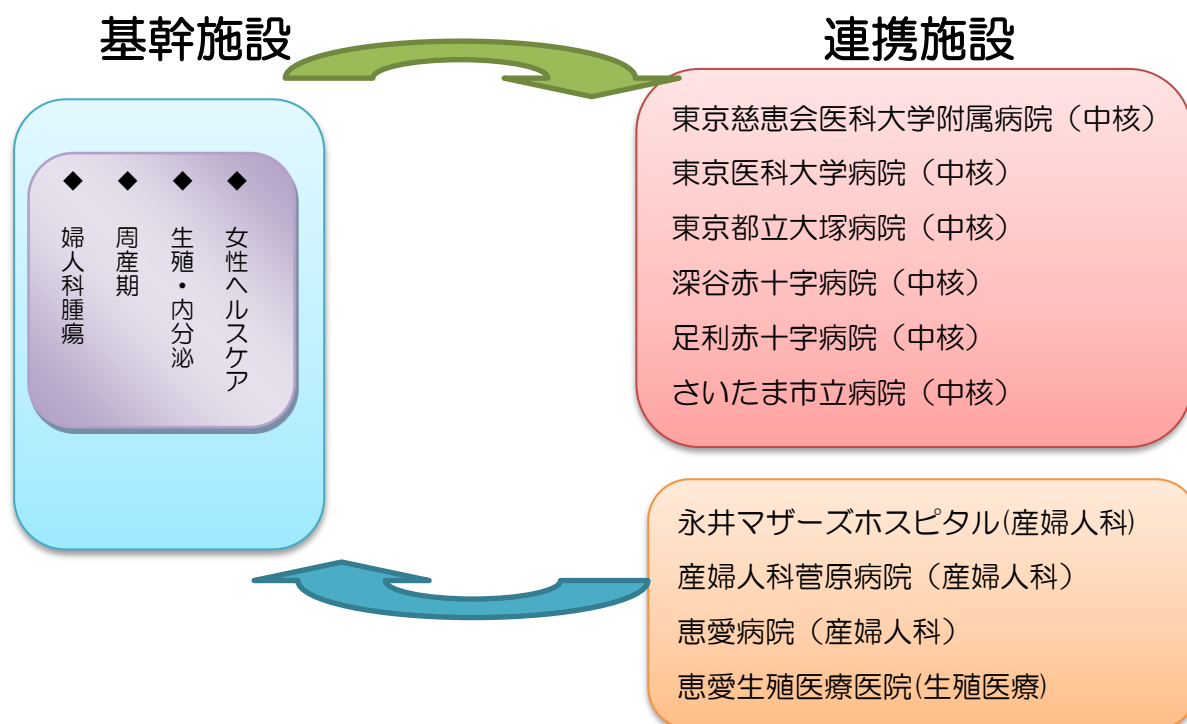


資料 4

獨協医科大学埼玉医療センター産婦人科研修プログラム例

A. 獨協医科大学埼玉医療センター産婦人科研修プログラムの概要

獨協医科大学埼玉医療センター産婦人科研修施設群



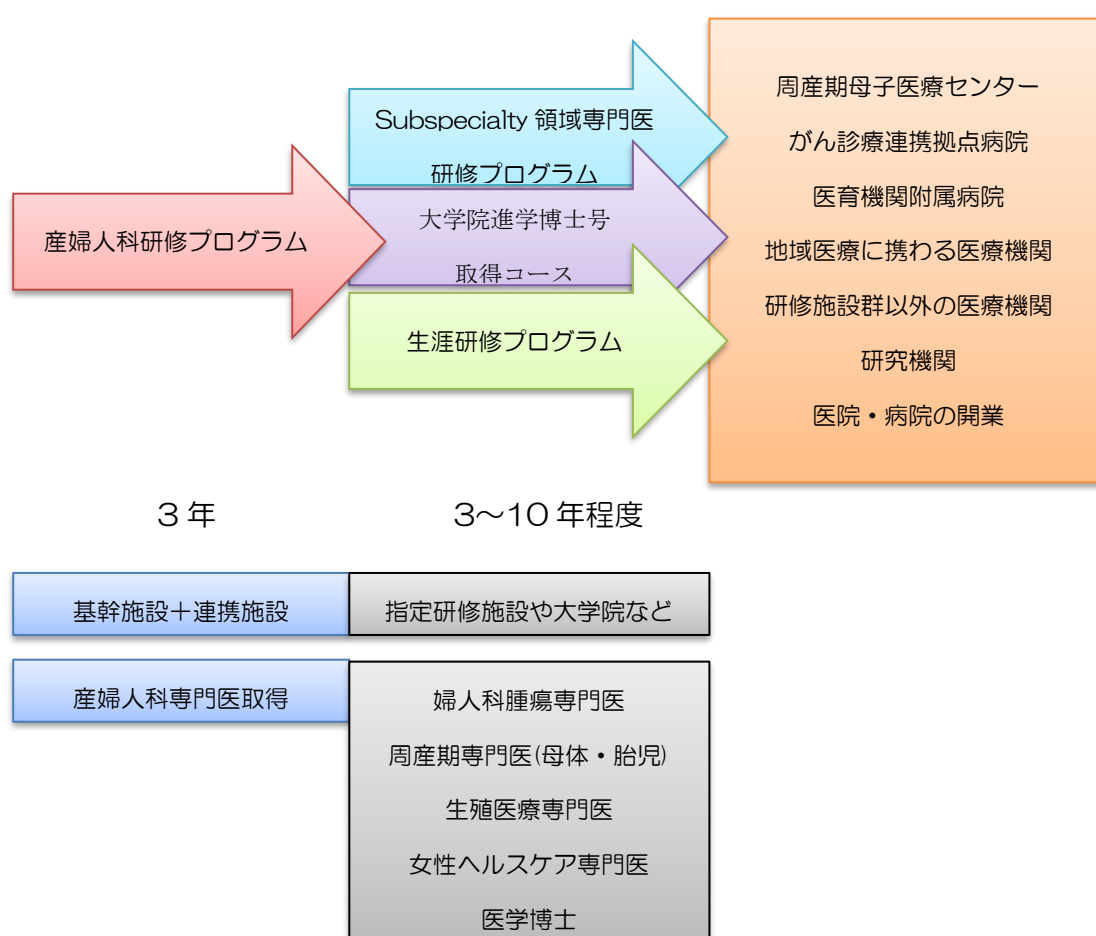
獨協医科大学埼玉医療センター産婦人科研修プログラムでは獨協医科大学埼玉医療センターを基幹施設とし、連携施設とともに研修施設群を形成して専攻医の指導にあたる。これは地域医療を経験しその特性の習熟を目的とし、高度かつ安定した地域医療の提供に何が必要かを勘案する能力がある専門医の育成に寄与するものである。また、大学病院では経験する事が少ない性感染症、骨盤臓器脱、避妊指導、モーニングアフターピルの処方と服薬指導などの習熟にも必要である。連携施設の内、6施設は高次医療機関・地域中核病院（連携中核施設）、3施設は主に地域の産婦人科医療全般を担う施設（連携産婦人科施設）、1施設は生殖医療専門施設(連携生殖医療施設)である。全ての連携施設には指導医が常勤しており、定期的に（一部施設は不定期）に基幹施設の担当指導医が来院し専攻医や施設専門医を指導することで、施設群全体での医療レベルの向上と均一化を図ることで専攻医に対する高度に均一化された研修システムの提供を可能とする。連携施設には得意とする産婦人科診療内容があり、基幹施設を中心として連携施設をローテートする事で婦人科腫瘍、周産期、生殖・内分

泌、女性のヘルスケアの4領域を万遍なく研修することが可能となる。

産婦人科専攻医の研修の順序、期間等については、個々の専攻医の希望と研修進捗状況、各施設の状況、地域の医療体制を勘案して、獨協医科大学埼玉医療センター産婦人科研修プログラム管理委員会が決定する。

B. 獨協医科大学埼玉医療センター 産婦人科研修プログラムの具体例

専門医制度研修プログラムとその後の Subspecialty 研修等と将来像の概要



獨協医科大学埼玉医療センター産婦人科研修プログラムは、3年間のプログラムである。専攻医は3年間で修了要件を満たし、ほとんどは専門医たる技能を修得したと認定されると見込まれる。修了要件を満たしても技能の修得が足りない場合、病気や出産・育児、留学などのため3年間で研修を修了できなかった場合は1年単位で研修期間を延長し、最終的に専門医を名乗るに足る産婦人科医として、修了年の翌年度に産婦人科専

門医試験を受検する。専門医を取得して産婦人科研修プログラムの修了と認定する。この4年目は産婦人科専門医取得とその後の Subspecialty 研修開始の重要な時期である。

研修は基幹施設である獨協医科大学埼玉医療センター産科婦人科・リプロダクションセンターならびに埼玉県内もしくは東京都・栃木県の連携施設にて行い2か月～1年ごとのローテートを基本とする。期間施設においては、産科婦人科で婦人科腫瘍（主に悪性もしくはハイリスク患者）、ハイリスク妊娠・産科救急、骨盤臓器脱などを中心に、また、リプロダクションセンターにおいて一般不妊治療・生殖補助医療（ART、男性不妊部門もあり TESE-ECSI 等も実施している）を研修する。基幹施設での研修の長所は、一般市中病院では経験しにくいこれらの疾患を多数経験ができることである。3年間の研修期間のうち1年6ヶ月から2年間（少なくとも1年間）は基幹施設で最重症度の患者への最新の標準治療を体験する。

基幹施設は、地域周産期母子医療センターであり、ハイリスク妊娠・産科救急を中心に周産期医療を行っている。しかしながら、早産・胎児異常症例等の扱いに制限があるため、連携施設の内5施設はそうした症例が豊富な高次医療機関・地域中核病院であり、総合もしくは地域周産期母子医療センターを持つ施設となっている（連携中核施設）。なお、これらの施設でも婦人科腫瘍をはじめとする婦人科疾患の研修も行うことができる。他の連携3施設は主に地域医療を担っているが、年間1500～2800件の分娩と180～2800件の生殖補助医療を行い、また、多数の一般婦人科疾患も扱っている産婦人科を中心とする病院である（連携産婦人科施設、但し、恵愛病院では生殖補助医療は行わず、連携生殖医療施設の恵愛生殖医療医院で実施）。ここでの研修は、一般不妊治療・生殖補助医療および一般婦人科疾患、正常妊娠・分娩・産褥や正常新生児の管理を中心に研修する。連携施設での、外来診療および入院診療は治療方針の立案、実際の治療、退院まで、指導医・専門医の助言を得ながら自ら主体的に行う研修となる。

C. Subspecialty 専門医の取得に向けたプログラムの構築

獨協医科大学埼玉医療センター産婦人科研修プログラムは産婦人科専門医取得後に以下の専門医・認定医取得へつながるようなものとする。

- ・日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍専門医
- ・日本周産期・新生児医学会 周産期専門医（母体・胎児）
- ・日本生殖医学会 生殖医療専門医
- ・日本女性医学学会 女性ヘルスケア専門医

専門医取得後には、「Subspecialty 産婦人科医養成プログラム」として、産婦人科 4 領域の医療技術向上および専門医取得を目指す臨床研修や、リサーチマインドの醸成および医学博士号取得を目指す研究活動も提示する。

D. 初期研修プログラム

獨協医科大学埼玉医療センター産婦人科研修プログラム管理委員会は、臨床教育センターと協力し、大学卒業後 2 年以内の初期研修医の希望に応じて、将来産婦人科を目指すための初期研修プログラム作成にもかかわる。

獨協医科大学埼玉医療センター研修プログラム例

1) 基幹施設→連携産婦人科施設→基幹施設→連携中核施設研修コース

産科人科専門医研修プログラムの概要（例 1）

年次	期間	研修施設	主要研修領域*				主な研修の内容
			腫瘍	周産期	生殖	ヘルスケア	
1年目	1年間	基幹施設 獨協医科大学 埼玉医療センター	◎	◎	○	○	産婦人科基礎 婦人科良性腫瘍の術者/助手、婦人科悪性腫瘍の経験 ハイリスク妊娠・分娩の経験、産科手術の術者/助手 一般不妊治療の経験、女性ヘルスケアの経験
2年目 前半	6ヶ月間	連携施設 いずれかの 連携産婦人科 施設†	△	◎	◎	◎	産婦人科基礎 妊娠・分娩管理・産科手術の実践 一般不妊治療・高度生殖補助医療の経験 女性ヘルスケアの経験
2年目 後半	6ヶ月間	基幹施設 獨協医科大学 埼玉医療センター	◎	○	◎	○	産婦人科応用 婦人科良性腫瘍の術者/助手、婦人科悪性腫瘍の診断・治療 ハイリスク妊娠・分娩管理・産科手術の実践 高度生殖補助医療の実践
3年目	1年間	連携施設 いずれかの 連携中核施設‡	○	◎	△	○	産婦人科応用 婦人科良性腫瘍の術者/助手、婦人科悪性腫瘍の診断・治療 ハイリスク妊娠・分娩管理・産科手術の実践 一般不妊治療の実践、外来診療（女性ヘルスケア管理を含む）

主要研修領域*：重点研修領域を◎、○、△、×の順に示す。；連携産婦人科施設もしくは生殖医療施設†：永井マザーズホスピタル、産婦人科菅原病院、患愛病院、患愛生殖医療医院；連携中核施設‡：東京慈恵会医科大学附属病院、東京医科大学病院、東京都立大塚病院、深谷赤十字病院、足利赤十字病院、さいたま市立病院

予定経験症例数

研修終了要件（一部改変）	獨協医大埼玉 医療センター	永井マザーズ ホスピタル(例)	獨協医大埼玉 医療センター	深谷赤十字 病院(例)	経験症例数 (必要修了要件数)
経膈分娩立ち会い医	30	150	10	140	330(100)
帝王切開執刀医	10	20	5	40	75(30)
帝王切開助手	5	20	5	15	45(20)
前置胎盤・常位胎盤早期剥離の帝王切開執刀医/助手	1	2	2	4	9(5)
子宮内容除去術・子宮内膜全面搔爬術執刀（稽留流産を含む）	10	30	5	15	60(10)
腔式手術（子宮頸部円錐切除術、子宮頸管縫縮術を含む）執刀	15	5	5	5	30(10)
子宮付属器摘出術・卵巢嚢胞摘出術執刀（開腹、腹腔鏡）	10	4	6	8	28(10)
単純子宮全摘出術執刀	5	3	20	6	34(10)
浸潤癌（子宮頸癌、体癌、卵巢癌、外陰癌）手術助手	15	0	15	2	32(5)
腔鏡下手術執刀・助手	5	25	10	0	40(15)
不妊症の原因検索・治療に携わった経験	5	100	25	50	180(5)
採卵・胚移植の術者・助手あるいは見学者として参加	0	70	5	0	75(5)
思春期や更年期以降女性の愁訴に対する診断・治療経験	20	120	20	40	200(5)
OC・LEP 初回処方時の有害事象などに関する説明ないし説明助手経験	2	60	4	4	70(5)

2) 基幹施設→連携産婦人科施設→連携中核施設→基幹施設研修コース

産科人科専門医研修プログラムの概要（例2）

年次	期間	研修施設	主要研修領域*				主な研修の内容
			腫瘍	周産期	生殖	ヘルスケア	
1年目	1年間	基幹施設 獨協医科大学 埼玉医療センター	◎	◎	○	○	産婦人科基礎 婦人科良性腫瘍の術者/助手、婦人科悪性腫瘍の経験 ハイリスク妊娠・分娩の経験、産科手術の術者/助手 一般不妊治療の経験、女性ヘルスケアの経験
2年目 前半	6ヶ月間	連携施設 いずれかの 連携産婦人科 施設†	△	◎	◎	◎	産婦人科基礎 妊娠・分娩管理・産科手術の実践 一般不妊治療・高度生殖補助医療の経験 女性ヘルスケアの経験
2年目 後半 3年目 前半	1年間	連携施設 いずれかの 連携中核施設‡	○	◎	△	○	産婦人科応用 婦人科良性腫瘍の術者/助手、婦人科悪性腫瘍の診断・治療 ハイリスク妊娠・分娩管理・産科手術の実践 一般不妊治療の実践、外来診療（女性ヘルスケア管理を含む）
3年目 後半	6ヶ月間	基幹施設 獨協医科大学 埼玉医療センター	◎	○	◎	○	産婦人科応用 婦人科良性腫瘍の術者/助手、婦人科悪性腫瘍の診断・治療 ハイリスク妊娠・分娩管理・産科手術の実践 高度生殖補助医療の実践

主要研修領域*：重点研修領域を◎、○、△、×の順に示す。；連携産婦人科施設もしくは生殖医療施設†：永井マザーズホスピタル、産婦人科菅原病院、恵愛病院、恵愛生殖医療医院；連携中核施設‡：東京慈恵会医科大学附属病院、東京医科大学病院、東京都立大塚病院、深谷赤十字病院、足利赤十字病院、さいたま市立病院

予定経験症例数

研修終了要件（一部改変）	獨協医大埼玉 医療センター	産婦人科 菅原病院（例）	東京都立 大塚病院（例）	獨協医大埼玉 医療センター	経験症例数 （必要修了要件数）
経膈分娩立ち会い医	30	200	150	10	390(100)
帝王切開執刀医	10	40	45	5	100(30)
帝王切開助手	5	30	20	5	60(20)
前置胎盤・常位胎盤早期剥離の帝王切開執刀医/助手	1	5	2	1	9(5)
子宮内容除去術・子宮内膜全面搔爬術執刀（稽留流産を含む）	10	50	10	5	75(10)
腔式手術（子宮頸部円錐切除術、子宮頸管縫縮術を含む）執刀	15	15	10	5	45(10)
子宮付属器摘出術・卵巢嚢胞摘出術執刀（開腹、腹腔鏡）	10	5	15	6	36(10)
単純子宮全摘出術執刀	5	3	10	20	38(10)
浸潤癌（子宮頸癌、体癌、卵巣癌、外陰癌）手術助手	15	0	5	15	35(5)
腔鏡下手術執刀・助手	5	10	7	10	32(15)
不妊症の原因検索・治療に携わった経験	5	50	20	25	100(5)
採卵・胚移植の術者・助手あるいは見学者として参加	0	60	0	5	65(5)
思春期や更年期以降女性の愁訴に対する診断・治療経験	20	100	30	20	170(5)
OC・LEP 初回処方時の有害事象などに関する説明ないし説明助手経験	2	30	0	4	36(5)

3) 基幹施設→連携中核施設→連携産婦人科施設→基幹施設研修コース

産科人科専門医研修プログラムの概要（例3）

年次	期間	研修施設	主要研修領域*				主な研修の内容
			腫瘍	周産期	生殖	ヘルスケア	
1年目	1年間	基幹施設 獨協医科大学 埼玉医療センター	◎	◎	○	○	産婦人科基礎 婦人科良性腫瘍の術者/助手、婦人科悪性腫瘍の経験 ハイリスク妊娠・分娩の経験、産科手術の術者/助手 一般不妊治療の経験、女性ヘルスケアの経験
2年目	1年間	連携施設 いずれかの 連携中核病院 †	○	◎	△	○	産婦人科基礎→応用 婦人科良性腫瘍の術者/助手、婦人科悪性腫瘍の診断・治療 ハイリスク妊娠・分娩管理・産科手術の実践 一般不妊治療の経験、女性ヘルスケアの経験
3年目 前半	6ヶ月間	連携施設 いずれかの 連携産婦人科 施設 †	△	◎	◎	◎	産婦人科応用 妊娠・分娩管理・産科手術の実践 一般不妊治療・高度生殖補助医療の実践 女性ヘルスケアの実践
3年目 後半	6ヶ月間	基幹施設 獨協医科大学 埼玉医療センター	◎	○	◎	○	産婦人科応用 婦人科良性腫瘍の術者/助手、婦人科悪性腫瘍の診断・治療 ハイリスク妊娠・分娩管理・産科手術の実践 高度生殖補助医療の実践

主要研修領域*：重点研修領域を◎、○、△、×の順に示す。；連携産婦人科施設もしくは生殖医療施設 †：永井マザーズホスピタル、産婦人科菅原病院、恵愛病院、恵愛生殖医療医院；連携中核施設 †：東京慈恵会医科大学附属病院、東京医科大学病院、東京都立大塚病院、深谷赤十字病院、足利赤十字病院、さいたま市立病院

予定経験症例数

研修終了要件（一部改変）	獨協医大埼玉 医療センター	東京都立 大塚病院(例)	恵愛病院(例) #	獨協医大埼玉 医療センター	経験症例数 (必要修了要件数)
経膈分娩立ち会い医	30	150	300	10	490(100)
帝王切開執刀医	10	45	50	5	110(30)
帝王切開助手	5	20	40	5	705(20)
前置胎盤・常位胎盤早期剥離の帝王切開執刀医/助手	1	2	1	3	7(5)
子宮内容除去術・子宮内膜全面搔爬術執刀（稽留流産を含む）	10	10	30	5	55(10)
腔式手術（子宮頸部円錐切除術、子宮頸管縫縮術を含む）執刀	15	10	1	5	31(10)
子宮付属器摘出術・卵巢嚢胞摘出術執刀（開腹、腹腔鏡）	10	15	2	6	33(10)
単純子宮全摘出術執刀	5	10	0	20	35(10)
浸潤癌（子宮頸癌、体癌、卵巣癌、外陰癌）手術助手	15	5	0	15	35(5)
腔鏡下手術執刀・助手	5	7	5	10	27(15)
不妊症の原因検索・治療に携わった経験	5	20	120	25	170(5)
採卵・胚移植の術者・助手あるいは見学者として参加	0	0	60	5	65(5)
思春期や更年期以降女性の愁訴に対する診断・治療経験	20	30	40	20	110(5)
OC・LEP 初回処方時の有害事象などに関する説明ないし説明助手経験	2	0	15	4	21(5)

恵愛病院 4 カ月 + 恵愛生殖医療医院 2 カ月の計 6 カ月

4) 獨協医科大学埼玉医療センター産婦人科初期研修プログラム

1. 獨協医科大学埼玉医療センターのすべての研修医は獨協医科大学埼玉医療センター産婦人科およびリプロダクションセンターが主催する学会、研究会、産婦人科卒後研修セミナー等に参加でき、各種学会発表や論文作成などができる。

2. 産科婦人科特化プログラム：産婦人科医師を目指す初期研修医のためのプログラム。初期臨床研修期間中、9ヶ月間を産婦人科研修に充てることが可能。産婦人科では獨協医科大学埼玉医療センター内において周産期、婦人科腫瘍の疾患の管理（手術の執刀を含む）を隈無く経験し、スムーズに3年目以降の産婦人科専攻医の研修に移行する。その他、内科（6ヶ月）、救急部門（3ヶ月）、麻酔科（2ヶ月）、小児科・外科・精神神経科・地域医療（各1ヶ月）が必修となっている。

スケジュール例

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内科						救急部門			外科	麻酔科	
	6ヶ月						3ヶ月			1ヶ月	2ヶ月	

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年次	小児科	産科	精神	地域	産科婦人科							
	1ヶ月	産科 婦人科	精神 神経科	地域 医療	8ヶ月							

3. 産婦人科ベーシックプログラム：全ての初期研修医のためのプログラム。上記に加え、産科婦人科（1ヶ月）が必修。初期臨床研修期間中、最長8ヶ月間の希望履修選択が可能であり、産科婦人科を8ヶ月選択することもできる。全ての医師が身につけるべき産婦人科のプライマリケア技能の研修が可能。

スケジュール例

1年次は産科婦人科特化プログラムと同様

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年次	小児科	産科	精神	地域	希望履修選択科目							
	1ヶ月	産科 婦人科	精神 神経科	地域 医療	8ヶ月							